

とちぎつばさの会

とちぎつばさの会活動紹介

本会は、女性の地位向上、すべてのひとの本質的平等の理念に立って男女共同参画社会の実現のために活動しています。本会の設立は、1980年コペンハーゲンで行われた第2回世界女性会議(国連女性の10年中間年世界会議)NGOフォーラムに参加したのをきっかけに、帰国後結成され、現在設立から41年目を迎えています。

目的達成のための主な活動は、海外自主企画研修、県内研修、又エック研修、会員交流会、国際比較研修などです。

直近10年間の主な活動紹介 目次

I 全体研修会	3
II 支部間会員交流会	5
III 国立女性教育会館(ヌエック)研修	7
IV 海外自主企画研修	9
V 40周年記念事業	13
VI ニュージーランド(コロナ禍延期)	14

全体研修会①

女性議員と懇談会
「女性政策に関する本県自治体の予算を学ぶ」



全体研修会②

三井まり子氏・河合正男氏・
加藤秀一氏・近藤孝弘氏・望
月善子氏・三浦まり氏・横山
幸子氏・上野千鶴子氏・明良
佐藤氏等の講演会や女性議
員との懇談会・会員討議など
毎年2回程度の全体研修を
行っています。



支部間会員交流会

(県北・県央・県南に分かれ会員間の交流を図りながら研鑽をしています)



支部間会員交流会

(交流を図りながら研鑽をし、那須野が原公園にて、養徳園の子供たちとふれあう)



国立女性教育会館 (又エック) 研修

10年前から、毎年国立女性会館にて男女共同参画実現に向けてワークショップを開催。



国谷裕子氏 「すべての男女が活躍でき、働きやすく暮らしやすい社会をつくる。」



ニコール・A・ゴードン氏
～母ベアテ・シロタ・ゴードンの願い～



2019年 男女共同参画推進フォーラム

その後それらに日本を加え、5か国の教育・政治・労働・福祉の比較研究をし、国立女性教育会館(ヌエック)にて報告研修を行いました。

<p>日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育は6・3制で9年間（文部大臣認可の教科書使用） ・大学費用は親の負担が当たり前と考える（73.9%） ・親の経済格差が教育格差を生む。負の連鎖 ・大卒時点で奨学金返済が平均330万円、学生の51%が奨学金を借りている。なかなか返せない現実 ・子供の相対的貧困率が16.3%で6人に1人 ・学校の先生の長時間労働が問題となっている（書類作成に追われ、子供に向き合う時間が取れない） ・義務教育時は学校給食あり（完全給食） 	<p>ドイツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民主主義を教える政治教育。5年生から9年生まで義務として実施 ・政治教育は国の税金で行っている ・いろいろな考え（賛成意見・反対意見）を知らせる ・州によって教育制度が違う ・教育の無償化（大学まで）公立の場合のみ ・5年生から進路が分かれる。進学・就職コースがあり、面接で決める ・幼稚園は満3歳児～、保育園は2歳以下の幼児。（私立は有料） ・家庭に帰って食べる子もいるし、弁当持参の子もいる
<p>ノルウェー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1842年教会が学校教育を始めた ・小学校のクラスは、30人で7年間学ぶ ・スクールエレクトション（政治をタブーにしない教育。学校内で議員との懇談が出来る） ・教育の無償化（大学まで） ・学童保育は義務。1～4年生の75%が7～17時まで利用 ・一人ひとりに価値があり、子どもは大切な人間であると考えている ・大人の考えを押し付けない。考えを提案する ・弁当を持参 	<p>フィンランド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィンランドには、初期幼児教育の法律がある。全ての子どもは平等で、憲法で教育を受ける権利がある ・就学前教育（プレスクール）を義務化している。入学前の1年間を学習の準備期間として、子どもの思考力や、自主性を伸ばすことに重点を置いた教育制度を持つ ・7歳から9年間、必要ならもう1年学べるようになっている。その後、高校3年間、または、専門学校に行き、大学には高校からでも専門学校からでも、どちらからでも行ける。どのような選択をしてもそこで閉ざされることはなく、すべて無料である ・全ての子どもに、保育施設を準備することが自治体の義務であり、夜間保育や、特別支援が必要な子どもに安くて良質なサービスを提供している ・小学校のカリキュラムは、国が定めた『学習』『生きていく能力を身に付ける』と、エスボー市が決めた『社会的能力』『考える力』というテーマがあり、教師は児童が学ぶべき事を学ぶというところで、かなりの部分で自由が許され任されている。テストも入試も無く、学校のレベル差もない ・ヘルシンキ平等委員会では、教育の場で、男女平等を進めている ・簡単な給食あり
<p>デンマーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11年間の義務教育(小中一貫校) （小学校は0年生(5歳)～6年生。中学校は7年生～10年生） ・成績表はないが、年2回親子面談がある。8～9年生で成績表を出す ・教育の無償化（大学まで） ・ペタゴード制度（生活指導）いじめなど曖昧に片づけない教育姿勢 ・自分で考え、自分で決め、自分の考えを言える教育を幼少から行う ・子供の時から自主自立感覚が養われている ・デンマーク語に敬語はない(国民対等平等関係) ・お弁当持参。売店あり 	

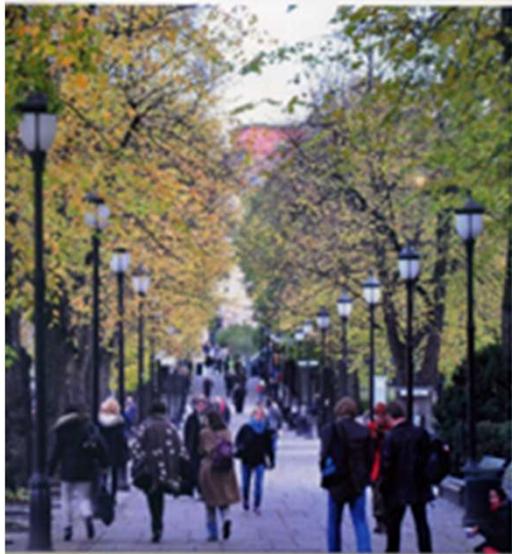
海外自主企画研修1

…ノルウェー…

女性の生き方を探る旅

本県は30年に渡り「女性の海外研修を行ってききましたが2010年に終了。しかし、国内での男女平等社会には程遠いものがある現状を見据え、私たちは独自に海外視察研修を企画し2年に1度の割合で計画、実行してきました。

2011～ノルウェー女性の生き方を探る旅～ 男女共同参画スタディーツアー



主催：とちぎつばきの会 海外研修実行委員会



労働党政務アドバイザーの
マテータトルセードさん
・議員は定職があるため、
仕事時は代理議員が代行。
・議会は通常、15:00～22:00
月一回、10:00～22:00開催し
ている。



議会室でマーリッドニーバック
議員から、男女平等運動について
ご講話を頂くことができた。
彼女は、現在副議長。
男女平等運動で著名な政治家である。

海外自主企画研修2

…デンマーク…

世界一幸せな国を訪ねて

2013～世界一幸せな国デンマークを訪ねて～
男女共同参画スタディーツアー



主催：とちぎつばさの会 海外研修実行委員会



買い物・洗濯
育児・掃除
これが典型的なデン
マークスタイル



パパの子育て
ベスト・マッチ



海外自主企画研修3

・・・ドイツ・・・

女性の生き方を探る旅



ベルリン・エネルギー・エージェンシー

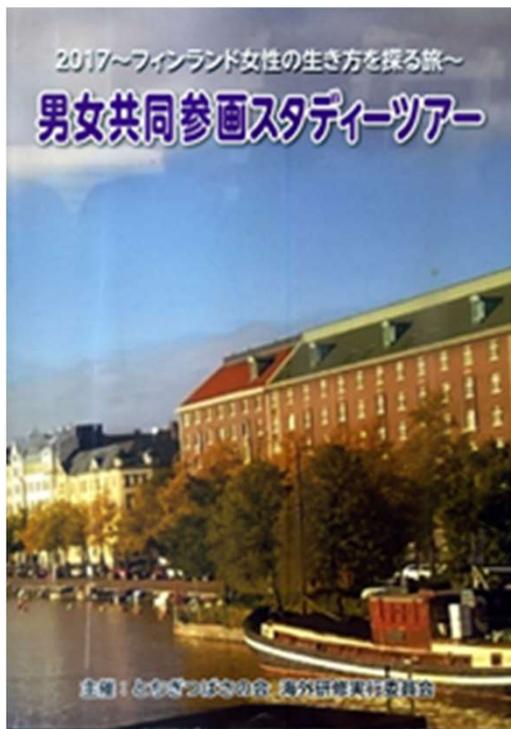


- ・政治教育の目的は、自分で考え自分で判断するため。
- ・若者からの要望で、1970年から18歳選挙制度。
- ・ブランデンブルク州は2011年に16歳選挙権を決定。最初の選挙は2014年。
- ・16歳選挙制度があるのは、もう1つブレーメン州。
- ・年齢に応じた政治教育がある。幼児には、遊びを通して教え、若者には教育プログラムを用意している。
- ・学校の中では、義務として政治教育がある。

海外自主企画研修4

フィンランド

女性の生き方を探る旅



給食の時間・小さい学年から

各自が欲しいものを好きなだけ選ぶバイキング形式。
無償給食は、児童が全員公平に食事がとれること。
そして、母親のお弁当作りの手間を減らすため。

40周年記念事業

つばき

40周年記念誌



とちぎつばきの会



上野千鶴子氏
(菅野勝男氏撮影)

2019年12月14日(土)男女共同参画センター(パーティ)にて40周年記念事業を開催した

映画鑑賞「何を恐れる～フェミニズムを生きた女たち～」監督松井久子氏
(女性たちの証言でつづる
ドキュメンタリー映画)

講演・社会学者・上野千鶴子氏
「フェミニズムが歩んできた道」



ニュージーランド研修(コロナで延期)

1893年に世界で初めて女性参政権を実現させ、現在子育て中の女性首相を務めている国、女性が世界で一番働きやすい国として選ばれたニュージーランドが、どのように男女平等を推し進めているのか、男女の生き方や制度を学ぶ

ニュージーランド
についてオリエン
テーションと勉強
会、展示物・資料
作成、日本の施
設(月の家)見学

